

2014年度評価指標一覧

本年度の調査結果は下記の評価指標により評価いたします。部門毎のランキング・レーティングは以下の基準に基づき評価し、ランキングでは上位5校、レーティングでは5段階評価の最高ランクに該当した大学を発表いたします。本評価指標一覧は弊団体HP(<http://ccc.eco-2000.net/eco-campus/>)からのダウンロードが可能です。

■部門毎のランキング・レーティング基準■

- ・CO2削減部門は § 1 のカテゴリのうちCO2排出効率・CO2削減率による得点の高い順にランキングを作成
- ・再生可能エネルギー導入部門は § 1. 評価指標に示す再生可能エネルギー利用率の高い順によりランキングを作成
- ・廃棄物・資源循環部門は得点率の高い順によりランキングを作成
- ・環境人材育成・研究部門は得点に応じ5段階のレーティングを作成
- ・総合エコ大学部門は、下記の表により1800点満点に換算し、得点率に基づき5段階のレーティングを作成

セクション名	満点	総合エコ大学部門 における配点	換算方法
§ 1. エネルギー・CO2	100	500	§ 1 の得点を 5 倍する
§ 2. 廃棄物・資源循環	100	400	§ 2 の得点を 4 倍する
§ 3. 環境人材の育成・研究	100	300	§ 3 の得点を 3 倍する
§ 4. 環境マネジメント・USR	300	600	§ 4 の得点を 2 倍する

表 1. 総合エコ大学部門評価方法

§ 1. エネルギー・CO2削減 評価指標(100点満点)

カテゴリ	カテゴリ 配点	調査内容	配点詳細	評価指標	備考
CO2排出効率	40	全構成員1人当たりのCO2排出	40	$A = \text{全構成員1人あたりのCO2排出}[\text{kg-CO2/人}](2013\text{年度実績値})$ とし、 $\langle \text{得点} P \rangle = \frac{10000}{A} > 25 \rightarrow 40\text{点}$ 、 $\frac{10000}{A} < 25 \rightarrow \frac{16000}{A}$ を得点とする ただし、小数点以下は四捨五入する	・構成員について 非常勤3人=常勤1人として常勤に換算し、 全構成員=常勤の職員数+常勤の教員数+学生数とする $\text{CO2排出量}(t\text{-CO2}) =$ 電気事業者から購入する電力[kWh] × 代替値[t-CO2/kWh] + 灯油[kL] × 36.7[GJ/kL] × 0.0185[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + A重油[kL] × 39.1[GJ/kL] × 0.0189[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + 都市ガス[千Nm3] × 44.8[GJ/千Nm3] × 0.0136[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + LNG[t] × 54.6[GJ/t] × 0.0135[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + 天然ガス[千Nm3] × 43.5[GJ/千Nm3] × 0.0139[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + LPG[t] × 50.8[GJ/t] × 0.0161[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + ガソリン[kL] × 34.6[GJ/kL] × 0.0183[t-C/GJ] × 44/12[t-CO2/t-C] + 水使用量[t] × 0.00036[t-CO2/t] - カーボンオフセットクレジット購入量[t-CO2] - CO2吸収量[t-CO2] とする
CO2増減率	40	単年度CO2排出削減率 中期的なCO2排出削減率	40	$\langle \text{前年度からの削減率得点} A \rangle =$ $\frac{5}{3} \times (\text{基礎点} 5\text{点} + 2009\text{年度比} 2010\text{年削減率} +$ $2010\text{年度比} 2011\text{年削減率} + 2011\text{年度比} 2012\text{年削減率} + 2012\text{年}$ $\text{度比} 2013\text{年削減率})$ $\langle \text{5年間の幾何平均得点} B \rangle =$ $\text{基礎点} 5\text{点} + \text{幾何平均}(\%) \times 5$	※ただし、 $\langle A \rangle$ および $\langle B \rangle$ の得点は小数点以下は四捨五入し、CO2削減率(40点満点)に対する得点は $\langle A \rangle + \langle B \rangle$ の上限を40点としたものとする 削減率がマイナスの場合、すなわちCO2排出が増加した場合は増加率の分減点となる
再生可能エネルギー導入率	20	学内外で発電し、利用、または購入されている再生可能エネルギー発電量	20	$\langle \text{得点} P \rangle =$ $4 \times (\text{再生可能エネルギー由来の電力}) / \text{消費電力}$ ただし、最大20点とする	・再生可能エネルギー由来の電力は以下の式で定義する 再生可能エネルギー由来の電力= 学内での各種再生可能エネルギー発電量+学外で発電し購入した各種再生可能エネルギー発電量(PPS)+グリーン電力証書購入量 ・コジェネレーションは含まない ・グリーン熱は評価対象外

参考資料1

§ 2.廃棄物・資源循環 評価指標(100点満点)

カテゴリ	カテゴリ配点	調査内容	配点詳細	評価指標	備考
PPC用紙使用量	12	PPC用紙年間使用量	12	<A>=全構成員1人当たりのPPC用紙使用量/全構成員1人当たりのPPC用紙使用量の全大学平均 <得点P>= A<=0.2→12点、0.2<A<=0.4→10点、0.4<A<=0.7→8点、0.7<A<=1→6点、1<A<=1.3→4点、1.3<A→2点、データなし→0点	
電子化実施状況	24	時間割の電子化実施状況	5	電子化のみで冊子を配布していない→5点 電子化をして、希望者にのみ冊子を配布をしている→3点 電子化をしているが、全員に冊子を配布している→1点 電子化をしておらず全員に冊子を配布している→0点	
		シラバスの電子化実施状況	5	電子化のみで冊子を配布していない→5点 電子化をして、希望者にのみ冊子を配布をしている→3点 電子化をしているが、全員に冊子を配布している→1点 電子化をしておらず全員に冊子を配布している→0点	
		授業資料(レジュメ)のファイルでの提供	9	全学にて電子化を実施→9点 一部のキャンパス・学部にて電子化を実施→4点 教授の自主的判断により電子化を実施している→1点 未実施→0点	
		会議でのペーパーレス実施状況	5	全学にてペーパーレス化を実施→5点 一部の会議においてペーパーレス化を実施→2点 未実施→0点	
廃棄物排出量	36	産業廃棄物年間総排出量	10	*統計分析の結果を踏まえて指標を策定	A=5年分の廃棄物総量/全構成員数とし、Aをもとに配点を行う
		一般廃棄物年間総排出量	13	*統計分析の結果を踏まえて指標を策定	
		一般廃棄物年間総排出増減率	13	*統計分析の結果を踏まえて指標を策定	
リサイクル率	8	古紙回収量、紙資源リサイクル率	8	回収率は区別に聞き、以下の二通りで別々の評価をする (I)PPC用紙のみの回収量を把握している場合 <得点P>=(PPC用紙回収量/PPC用紙投入量)×0.1 (ただし、最大8点とする) (II)PPC用紙のみの回収量を把握していない場合 <A>=1人当たりの古紙回収量/一人当たりの古紙回収量の全大学平均 <得点P>= A>2→8点、2=>A>1.3→6点、1.3=>A>0.7→4点、0.7=>A>0→2点 把握していない→0点とする	
食糧廃棄量	10	食糧廃棄量把握状況	10	食糧廃棄量把握状況 ・出入り業者を含め全て把握している→10点 ・一部は把握している→5点 ・全く把握していない→0点	廃棄物・資源循環部門の評価に関しては「食堂が無い」を選択された大学は「食」の20点を除いた場合の得点率で順位をつける
食にまつわる施策	10	食糧廃棄物有効利用、地産地消の実施有無等自由記述	10	記述内容を総合的に評価	

§ 3.環境人材育成・研究 評価指標(100点満点)

カテゴリ	カテゴリ配点	調査内容	配点詳細	評価指標	備考
環境教育実施状況	42	環境に関する部局の設置状況	5	部局が存在する→5点 部局が存在しない→0点	
		環境教育実施状況	10	*統計分析の結果を踏まえて指標を策定	<A>=学生数/※該当科目数 AIに基づき評価 ※「環境」をテーマとした教養科目数
		特徴的な環境教育実施状況	15	選択数×3点 ただし、最大15点とする	選択肢は下記の通り ・インターンシップ制度 ・環境について学ぶための留学支援 ・ISO全国大会等の国内で開催される会議への参加支援 ・COP等国際的な環境に関する会議への参加支援 ・環境に関連するフィールドワークの実施 ・環境問題に関する分野横断の講座 ・資格取得による単位認定 ・資格取得支援講座
		上記の内容またはその他実施している特色ある教育カリキュラム内容	12	記述内容を総合的に評価	
意識啓発実施状況	38	環境啓発活動実施状況	28	選択数×4点 ただし、最大で28点とする	選択肢は下記の通り ・新入生向けオリエンテーション・ガイダンスでの意識啓発 ・環境に関する授業の必修化 ・イベントの実施(環境フォーラム・シンポジウム・環境週間・月間等) ・全学向け環境セミナー・研修会の実施 ・学生エコアイデアコンテストの実施 ・学生への行動目標の設定 ・ポスター、広報誌等による呼びかけ ・メディア(HP、校内放送、メール等)による呼びかけ ・環境に関する学内資格の設置 ・地域清掃活動等の地域と連携した活動への参加 ・その他
		環境啓発活動の実施内容詳細、その他実施している意識啓発	10	記述内容を総合的に評価	
環境研究	20	大学の施設運用に関する研究状況	15	該当する研究を実施している→10点 論文の作成・公表している→5点	
		環境に関する研究所有無、所属教職員数	5	<得点P>=<研究所設置有無得点A>+<所属人数得点B> <研究所設置有無得点A>= 研究所あり→3点、所属職員数(=教員+技術職員等)が10以上 30未満 →1点 30以上 →2点	

参考資料1

§ 4.環境マネジメント・USR 評価指標(300点満点)

カテゴリ	カテゴリ 配点	調査内容	配点詳細	評価指標	備考	
環境マネジメント	200	対策専門部署 有無・規模	15	<得点P>=<部署設置得点A>+<職員数得点B> <部署設置得点A>→設置している→3点、 設置していない→0点 <職員数得点B>=(専任職員数×2+兼任職員数×1) ただし、は最大12点とする		
		他部署との連携状況	6	記述内容を総合的に評価		
		トップ層のコミットメント	8	トップ層の参加する会議開催頻度をもとに評価		
		過去の省エネ目標と 達成状況	24	得点=4/3×(a+(b+c+d)e) 【目標設定有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:2点 【目標内容】(b) <原単位(面積)> -年換算1%:1点 -年換算2%:2点 -年換算3%以上:3点 <総量> -年換算1%:2点 -年換算2%:3点 -年換算3%以上:4点 【基準年】(c) 2005年以前:2点 2006~2010年:1点 2010年以降:0点 【目標期間】(d) 単年:0点 1~4年:1点 5年以上:2点 【達成状況】(e) ・達成:2 ・未達成:1		定性的な目標のみの場合→(b),(c),(d)の得点を0点とする
		現在の省エネ目標内容	16	得点=16/9×(a+b+c+d) 【目標設定有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:2点 【目標内容】(b) <原単位(面積)> -年換算1%:1点 -年換算2%:2点 -年換算3%以上:3点 <総量> -年換算1%:2点 -年換算2%:3点 -年換算3%以上:4点 【基準年】(c) 2010年以前:1点 2011年以降:0点 【目標期間】(d) 単年:0点 1~4年:1点 5年以上:2点		定性的な目標のみの場合→(b),(c),(d)の得点を0点とする
		過去のCO2削減目標と 達成状況	24	同上		
		現在のCO2削減 目標内容	16	同上		
		過去の再エネ導入目標 と達成状況	16	得点=16/15×(a+b×c) 【目標有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:5点 【目標内容】(b) 目標内容によって決定(最大5点) 【達成状況】(c) ・達成:2 ・未達成:1		
		現在の再エネ導入目標 内容	24	得点=12/5×(a+b) 【目標有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:5点 【目標内容】(b) 記述内容を総合的に評価(最大5点)		
		過去の廃棄物排出量削 減目標と達成状況	15	得点=3/2×(a+b×c) 【目標有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:2点 【目標内容】(b) 目標内容によって決定(最大4点) 【達成状況】(c) ・達成:2 ・未達成:1		
現在の廃棄物排出量削 減目標内容	10	得点=2×(a+b) 【目標有無】(a) ・目標なし:0点 ・目標あり:1点 【目標内容】(b) 目標内容によって決定(最大4点)				
学生・教員との意見・情 報交換	14	・意見箱を設置し把握に努めている→0点 ・授業評価アンケート等を実施し把握に努めている→0点 ・学生の意見を聞く場・会議を設けている→6点 ・学生や教職員から集約した意見をもとに検討をしている→6点 ・学生や教職員から集約した意見により新たに始まった取組みを開始している→8点 ・詳細(自由)記述、その他の説明→総合的に評価(最大6点) ただし、最大14点とする				
学生と連携した 活動・協働	12	記述内容を総合的に評価				

カテゴリ	カテゴリ 配点	調査内容	配点詳細	評価指標	備考
USR	100	各種法的規制の 遵守状況	35	<p><得点P>= それぞれの法令の得点 a×b の合計 (a)法令ごとの係数1,2のどちらか (b)選択肢の係数0,1,2,3のいずれか 最大35点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象となる範囲において全面的に実施し基準を満たしている→3 対象となる範囲の一部のキャンパス、部局で実施し基準を満たしている→2 対象となる範囲において全面的に実施したが、一部しか達成されなかった→2 対象となる範囲の一部のキャンパス・部局で実施したが、一部しか達成されなかった→1 法令の対象となっていない→1 法令の対象となっているか把握していない→0 法令の対象になっているが対策を実施できていない→0 	<p>法令ごとの係数は以下の通りです(原案)</p> <p>■一般的な責務・努力義務を定めている主な法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法→1 ・循環型社会形成推進基本法→1 ・地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)→2 ・生物多様性基本法→1 ・国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)→2 ・環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)→2 ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律(環境保全活動・環境教育推進法)→1 ・国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律(環境配慮契約法)→1 <p>■遵守しない場合、罰則規定がある主な法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)→1 ・食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)→1 ・特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)→2 ・容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)→1 ・資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)→1 ・ダイオキシン類対策特別措置法→1 ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)→2 ・エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)→2 <p>※調査依頼書に記載されている一部の設問項目(法律)を除外しましたが、指標自体は変わりません</p>
		環境情報の公開性	15	安全・環境どちらも作成している→15点 安全・環境いずれか→9点 作成していない→0点 ガイドライン準拠→6点 ガイドライン非準拠→0点 作成に学生が関わっているか→6点 ただし、最大15点とする	
			12	Webでの公開→8点 学内外で説明の機会を設けている→4点	
		市民への情報 提供状況	6	年開催回数、延べ参加人数を中心に総合的に評価	社会との連携の一環として実施するセミナー等の公開講座を対象とします
		意見交換 実施状況	6	<得点P>=<実施得点A>+<実施方法に応じた得点B> <A>=実施している→2点、未実施→0点 =周辺住民を交えた会議・意見交換会の実施→4点 パブリックコメント・意見箱の設置→2点	
			8	記述内容を総合的に評価	
		地域貢献活動の 実施状況	6	年開催回数、延べ参加人数を中心に総合的に評価	社会との連携の一環として実施する地域貢献活動を対象とします
		専門家派遣の 実施状況	6	<得点P>= 延べ派遣人数40人以上→6点、20人以上→3点、 1人以上→1点	行政の委員会等へ派遣される全教職員を対象とします
SRI実施状況	6	実施している場合→6点、未実施・不明の場合→0点	SRIとは社会的責任投資を指し、投資先の企業の社会に対する責任や貢献を重視し投資をすることを意味します		